

## 人類の証言—今日の朝鮮

朝鮮社会科学者協会研究士

ユン・ヨンナム

チュチェ思想研究者たちの平壤大会合があった時からもはや10年という歳月が流れました。

朝鮮のことわざに、10年一昔という言葉があります。

人類史において一瞬とも言えるその10年は、持続的な発展を志向する数多くの国と民族の運命に大きな変化をもたらしました。

人民に対する愛の政治を施していく朝鮮労働党の精力的な指導によって、朝鮮でも多くの変化が起きました。

日増しに発展する朝鮮の現実を紹介するために、いつかブラジルのあるウェブサイトが数十枚の写真を載せて加入者たちに次のような質問をしたことがあります。

「どの国の都市の建物であるのか」

遺憾ながらこの質問に、朝鮮の建物だと答えた人は一人もいませんでした。

後に朝鮮の首都平壤の建物だということを知った人々は驚きを禁じえなかったそうです。

信じがたい朝鮮の変化、日増しに発展する朝鮮の現実が加入者たちに与えた衝撃とその意味は何かということです。

それは敵対勢力のいかなる制裁や圧力も朝鮮では絶対的に通じないということです。

ある一面ではなく、政治、軍事、外交、経済など各方面にわたる朝鮮に対する敵対勢力の制裁策動は、一つの国でもない帝国主義連合勢力によって行われる悪辣で、卑劣なものであり、数カ月、数年でもないほぼ80年間も続いている超強度のものです。

金正恩総書記は次のように述べました。

「帝国主義者は数十年間、朝鮮人民が片時も安らかに暮らすことができないように常時情勢を緊張させ、ありとあらゆる封鎖と圧力、制裁によって経済発展と生存の道までことごとくさえぎりました」

貪欲な敵対勢力は、朝鮮の力を次第に消耗、弱化させるために超強度の制裁を加え続けながら、朝鮮で「崩壊」という結果が生じることを待っていました。

しかし、与えられた運命の通りではなく、自己の運命を切り開きながら生きること惯れてきた朝鮮は、特有の国風である自力更生でもって、自主、生存、発展を阻害する敵対勢力の悪辣な制裁と封鎖を打開しながら、国家の力、国防力の強化で巨大な成果を引き続きもたらし、国力を固めてきました。

このような現実には誰もが驚かざるを得ません。

真実は何ものでも覆い隠すことができません。

まさにこうした真理を再び実証したがゆえに、加入者たちの受けた衝撃が大きかったのだと思います。

世紀を継いで強行される敵対勢力の過酷な制裁によってこんにち、朝鮮には足りないものも、困難なことも少なくありません。これに対して朝鮮は隠しません。

しかし、いつも人民と生死、苦楽を共にし、人民のためにすべてを捧げている朝鮮労働党の人民愛の政治によって朝鮮では、人民の望む願いが一つ一つ現実となっています。

それにもかかわらず、朝鮮の「悲惨な現実」だの、何だのという悪宣伝と買収された「証人」、民族反逆者らによって捏造された「証拠」資料でもって、正義と真理を愛する人々の目を覆い隠そうという敵対勢力の卑劣な策動によって、今日、世界の多くの人々が朝鮮を正しく理解していません。

2020年に500余万人という視聴率で報道界を驚かせた平壤取材報道物のテレビ放映は、今日の朝鮮をありのまま画面に映したことにより、多く視聴者を驚きと賛嘆の世界へと導いたといえます。

現地で直接撮って送った北京駐在「フランス2TV」特派記者ミゲ自身も平壤がこんなに立派な都市だとは知らなかったと感心しました。

これこそ人類が見た今日の朝鮮です。

真実は何ものでも隠せません。

正義と真理を愛する人であれば、今日の朝鮮を偏見なしに見るべきでしょう。

朝鮮民主主義人民共和国と連帯するブラジル委員会が最近、「朝鮮民主主義人民共和国を偏見なしに見よう」の題でインターネット・ホームページに載せた記事の内容を今一度思い出す必要があります。

記事では一つの大家庭を成した社会で暮らす朝鮮人民は、情勢が極度に悪化されるなかでもいつも楽観的に生活しているとして次のように強調しました。

人々の言葉と行動ではなんら不安や動揺、心配などを見出せず、かえって彼らの笑いから明日にたいする楽観が感じられます。

朝鮮人民は社会主義の建設過程で何でも自分の力でやらねばならないという真理を身につけました。

長い歳月にわたって外部勢力の侵略を受けてきたし、いまでも戦争の脅威の中で生活していますが、朝鮮は本当に驚くほどすべてを立派にやりこなしています。

今、朝鮮は絶えない発展の道を歩んでいます。

時間ごとにすばらしい町が相次いで建ち並び、工場、企業の生産能力が日まじに高まっています。

より高い水準の無料教育制、無料治療制が実施され、豪華だとしか言えない近代的な住宅が平凡な勤労者に無料で提供されており、計画経済の威力が最大に発揚されています。

続いて記事は、朝鮮の現実には西欧に住む人々には理解しがたい事実だと言い、朝鮮に行ってみるとそのわけがすぐに分かると強調しました。

そうです。朝鮮に百聞一見に如かずということわざがあります。

朝鮮に対する偏見を持った人々は平壤に来て信じがたい制裁の中の現実を自分の目で直接見る方がよいでしょう。